

# メディア接触と学業、心身状態の関係：小学6年生の場合

箕浦康子

## 1. 目的

メディアの子どもへの影響の有無がいわれて久しい。第4回以降の調査項目の検討のため、テレビやパソコン、携帯電話、テレビゲームなどのメディア利用が小学6年生の学業成績や心身状態とどのように関わっているかを調べた。

## 2. 方法

川崎市の学校を通し協力を依頼した小学6年生101名に対し「映像メディア視聴日誌」と「質問紙調査」（保護者、本人）を行った。

## 3. 分析・結果

まず、携帯電話とパソコンの使用実態を調べたところ、6年生時点での男子の携帯所持率は55人中10人（18%）であったが、女子は46人中25人（54%）でメールや写真撮影、ゲームなど多様な使い方をしていた。また、6年生の自宅でのパソコン使用に関しては、自宅でパソコンを使っているのは、男子は56人中13人（23%）に対して、女子は48人中23人（48%）であり、携帯電話やパソコンは、男子より女子のほうが利用している人の割合が多い。

一方、テレビ、テレビゲームやビデオとの接触時間は、テレビの専念視聴以外は小4の時に比べ減少している。特にテレビゲームは、小4では男子の8割、女子の6割が遊んでいるが、学年が進むにつれて遊ぶ子どもの割合も遊ぶ時間も減少し、小6では遊ぶ子どもの割合は男子の6割、女子の3割となる。男女別には、男子の方が遊んでいる人の割合が高い。

学業成績とメディア使用の関係を見たところ、携帯電話の所持の有無では差がなかったが、パソコン利用時間の長い子どもと算数の成績（低）に相関がみられた。また、テレビを専念して見ている時間の長さや社会・理科・算数の成績（低）も相関がある。ながら視聴とテレビを専念して見ている時間を加算したテレビ視聴時間（長）と、自宅勉強時間（短）にも相関がみられた。

疲労感とメディア使用の実態や学校での友人関係を見たところ、小学6年男子の場合は疲労感と特に関連性の強い項目は見出せなかった。これに対し小学6年女子の場合は、パソコン時間もテレビ専念視聴時間も疲労感とは関係がなかったが、学校での孤立感をいれると説明率は63%に上昇し、学校での孤立感と疲労感との関連性が示唆される結果となった。